

令和7年度博物館実習生製作企画展示

令和7年8月10日(日)

【1班】

1 タイトル 「暮らしの進化は、自然がお手本」

2 趣旨

私たちの暮らしの中には、自然をお手本にしたものがたくさんある。自然の特性（成体、体のつくりなど）を私たちが使うものに変換する技術を「バイオミメティクス」という。バイオミメティクスとは1950年代にオットーシュミットによって提唱された言葉である。面ファスナーや新幹線、扇風機、注射針など様々なものに生物の体のつくりが生かされている。

カワセミの特徴的なくちばし、フクロウの羽、「構造」で生み出す色など、生き物それぞれの体のつくりを紹介することで、生物が多様な特徴を持っていることを理解してもらう。そして、その特性がどのように私たちの暮らしに役立てられているのか、生き物たちと私たちの暮らしの関わりを学ぶ。

近年、自然破壊や地球温暖化、燃料資源の有限性など、地球環境問題が深刻化する中で、私たちは自然を「いかに効率よく“使う”か」という、いわば「利用者」としての視点に偏りがちである。しかし、人類は古くから自然からの恩恵を受け、自然から学び、自然と共に生活してきたのである。この「享受者」そして「学習者」「共存者」としての視点を提供し、自然に対して正しく理解し、多角的に考えていくことができるようになることが大切である。

生活の中で活用されているバイオミメティクスの事例を展示することで(1)生き物の特性を正しく理解し、(2)普段何気なく見ているものに対し、新たな視点を獲得してもらうことを目的とする。

博物館実習企画展示、企画展示発表会の様子

